

申請者	学科名	保健福祉	職名	准教授	氏名	坂野 純子 印
調査研究課題	Sense of Coherence (SOC) の生理学的メカニズムの検討					
交付決定額	300,000					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	坂野純子	保健福祉・准教授	精神保健福祉	研究統括・計画立案・実験遂行・論文作成	
	分担者	上田篤嗣	デザイン工・助教	グラフィックデザイン・認知心理	協力者募集・データ集計	
		渡邊千穂	保健福祉・院生	福祉心理	実験遂行・協力者募集・データ集計・論文作成	
	筒井澄栄 (学外)	国立障害者リハビリセンター 研究所心理実験研究室・室長	障害者福祉	外部審査依頼		
調査研究実績の概要	<p>&lt;背景・目的&gt;</p> <p>Sense of Coherence (SOC) とは、健康社会学者Antonovsky,Aによって提唱された健康生成論に基づくストレス対処および健康保持に関する概念である。健康生成論とは、健康がいかんして回復され、維持され、増進されるのかという従来の医学がとってきた疾病生成論とは異なる視点であり、今日までに保健、福祉、医療、看護、心理、教育の様々な分野で研究が進められてきた。しかし、その生理学的メカニズムに関する研究はこれまでほとんどなされておらず、これは従来の疾病生成論でストレスが生体に及ぼす影響を種々の中枢・末梢系の生理指標で検討をしてきたのとは対照的である。そこで本研究ではSOCの生理心理学的（神経生物学的）基盤を検討するために、健常成人をSOCの得点で高群と低群に分け、標準的な精神ストレス課題（Trier Social Stress Test：TSST）を課し、その際の生理指標（平均心拍数：HR、精神性発汗：SCRなど）および心理指標（日本語版PANASネガティブ感情）を測定した。同時に、近年ストレス制御と関連が確認されている標準的な遂行機能を評価し、生理指標との関連も合わせて検討した。</p> <p>&lt;方法&gt;</p> <p>352名を対象に日本語版SOC尺度13項目版に回答してもらい、SOC得点の平均値未満を低群、平均値以上を高群とし、各群から無作為抽出をした結果、実験対象者はSOC高群28名、低群33名であった。急性ストレス実験としてTrier Social Stress Testを参考に順応期、スピーチ課題期（準備課題、発話課題）、暗算課題期（外的提示型暗算課題、内的生成型暗算課題）、回復期の4期間を設定した。各期間、各課題中の自律神経指標（平均心拍数：H</p>					

R、心拍変動（標準化HF、LF/HF比）、精神性発汗SCR）を測定し、各期、各課題終了後、心理指標（日本語版PANAS：ネガティブ感情）に回答させた。また4種の認知機能検査（Stroop color-word検査、Trail Making検査、言語流暢性検査、WAIS-III：語音整理）を実施し、その課題成績と各期、各群のストレス反応との関連を検討した。解析方法はSOC群（2）×期間（4）の二元配置分散分析を行い、下位検定として単純主効果検定およびBonferroni補正による多重比較を実施し、また遂行（認知）機能との関連の検討にはステップワイズ法による重回帰分析を用いた。

<結果と考察>

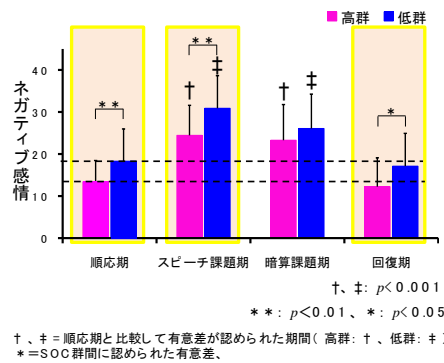


図1.ネガティブ感情の結果

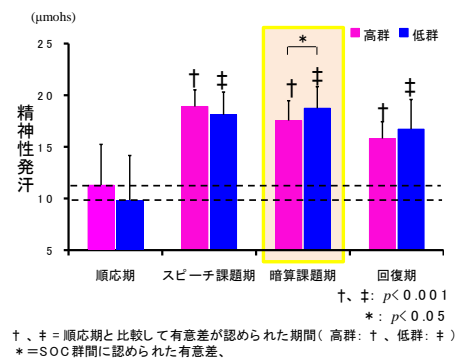


図2.精神性発汗（SCR）の結果

調査研究実績  
の概要

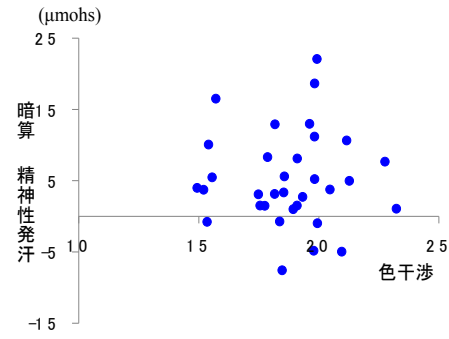
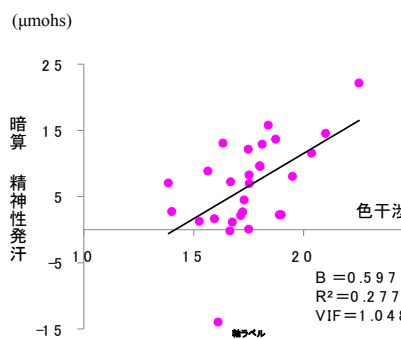


図3.暗算期SCRとStroop検査成績との関連（左：SOC高群・右：SOC低群）

PANASのネガティブ感情は分散分析の結果、SOCの群間に有意な差が認められ、下位検定の結果、暗算課題期以外の期間で低群が有意に高くなった（図1参照）。SCRは分散分析の結果、有意な交互作用が認められ、下位検定の結果、暗算期、特に内的生成型暗算課題において高群が有意に低くなった（図2参照）。また、ネガティブ感情、HR、SCRにおいて順応期と比較して各課題期で有意な上昇が認められたことから、TSSTのストレス負荷は適切であり、またSOC高群がストレス反応を抑制していることが示唆された。さらに、この抑制効果を説明する遂行（認知）機能を検討した結果、Stroop color-word検査における成績（反応時間）が有意に関連した（図3参照）。

本研究によりSOCがネガティブ感情及び自律神経活動における急性ストレス反応に対して抑制効果を与えることが示され、また、その生理ストレス反応に対する抑制効果は、認知的葛藤処理に関わる遂行機能が関連していることが明らかとなった。

成果資料目録

・2013年度 保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 修士論文 渡邊千穂  
『Sense of coherence (SC0) の自律神経活動への効果と認知機能との関連』

(成果資料等があれば添付すること。)